

令和3年第1回（通算11回）中山町総合教育会議録

1 開催日	令和3年11月29日（月）
及び場所	中山町中央公民館第1研修室
2 開閉時刻	開会午後1時38分 閉会午後3時00分
3 出席委員の氏名	町長 佐藤俊晴 教育長 浦山健一、教育委員 大津俊則、鈴木名津子、今野裕恵、齊藤秀雄
4 職務上会議に出席した職氏名	教育課長 野口好一、主任指導主事兼代表統括 浅野祥子 学校給食センター所長 森谷真由美、統括 多田直晶

1 協議内容

会議の要旨

(1) 教育行政に係る課題について

○学校教育グループについて

鈴木委員：働き方改革のために中学校にスクールサポートスタッフの配置を希望するとあるが、長崎小学校には必要ないのか。

浅野：長崎小学校には支援員を多く配置している。中学校は在校等勤務時間の時間外勤務が多く、事務作業の軽減へのサポートが必要なため、中学校への配置希望としている。

佐藤町長：英語検定受験補助について。受験者数が少ないか。

浅野：参考資料ではあるが、令和元年度1年間分と比較したときに、令和3年度第2回の1回分の受験者人数と考えれば、受験者数は増えており、一定の効果は上がっていると思う。

齊藤委員：校舎の建て替えのサイクルはどうなっているか。

野口課長：昨年度、長寿命化計画を策定した。学校施設（コンクリート中性化調査等の実施）の対処療法的な補修ではなく大規模な補修を行わず長く使うためのもの。一つの目標は80年。豊田小学校外壁、コンクリート中性化などの結果も出ているので、その部分の大きな補修が必要になることもあるが、今のところ何年で改築かの具体的な考えはない。

浦山教育長：長崎小学校の工事状況はどのようになっているか。

野口課長：給水管の工事を実施している。水が細くなったり、錆が出たりという課題が長年あったため、5000万円弱で今年度末までの工事を予定している。

浦山教育長：ギガスクール構想などで、高速回線などのネット環境を整えるなどの投資をしている。

トイレ洋式化、エアコンの導入等も行ったため、すぐに施設を新しくすることは難しい。

環境を整えて長く使うことが第一の方針となる。児童数の減少も課題。適正規模での教育も見据えた検討が必要であり、その場合は統合、新校舎での学びということの検討も必要である。出生数から考えても10年以内での検討事項と思われる。

佐藤町長：補修をしながら80年利用できるようにとあるが、コンクリートの耐久性や設備の電気、給排水の配管の耐久性は異なるので、見定めていかなければならない。普通は5～60年が限度かと考えていた。そう考えるとあと10年と考えるが、学校というコミュニティを考えた時に、それぞれの学区でコミュニティスクールを設置している。ハード面だけでなく教育環境の整備を考えていかなければならない。検討委員会を作る準備もしていかなければならない、そういう時期が来るかと思う。役場庁舎が第6次総合発展計画での建て替えをうたっている。デジタル化の進む中で、教育の在り方もだいぶ変わってきている。

齊藤委員：公共物に求められるものが建てた40年前と今は全然違う。少子化だけでなく、災害への備えも含めて。災害レベルの拠点になるのか、場所的な問題も含めて検討が必要。80年は正直途方もない時間だと感じた。

佐藤町長：昨年7月の豪雨でもいろいろ検討した。長崎小と豊田小は洪水と土砂の避難場所に指定されていなかった。地域住民から2、3階は避難できるだろうと声上がり、現在は避難場

所になっている。豊田小学校はがけ崩れがあった場合、大きな被害を被る建物ではないと捉えられるので、そういうことも踏まえた避難対策を考えていかなければならないと考える。

大津委員：災害について。昨年度中山中学校が避難所になった。子ども達をいつ帰すか、中学校が避難所である点を考え、中学校に留め置くという選択肢がより正解だったのではないかと考えている。その時の防災計画（水や食料）の視点も長期的、広範囲に広い視野で考えてほしい。

大津委員：確かな学力。タブレット活用。WIFI 環境にない家庭にいろいろと貸し出しと聞いている。貧困も話題になっているので、手厚い補助や支援を継続してほしい。学校における ICT 支援員のさらなる充実を希望する。学校サポートへの希望。

佐藤町長：家庭に持ち帰って WIFI 整備がなされていない家庭はどれくらいあったか。

野口課長：貸し出し用ルーターを全部で 70 台ほど確保したが、それを上回ることはなかった。その範囲内で収まった。半分いかないというほどではなかった。

佐藤町長：GIGA スクールサポーター。何年間計画しているか。

野口課長：国の補助を受けて行っているもの。導入して間もないということで、簡単になるものではないのではないかと考えている。

佐藤町長：7 年後には、スペシャリストの教員が出てくるのではないかと。そう考えると、後 7 年くらいで終わるのではないかと。

今野委員：働き方改革。部活動指導員。専門性、先生方の補助にはすごく良いと思う。思春期の難しい子ども達を扱うので、研修会なども実施して子どもたちの気持ちを大切に育ててほしい。

佐藤町長：部活全体を見渡してくれるような事業だと思ったが、特化したところへの配置となっている。学校の考えはどうか。日体大と連携。地域おこし協力隊として部活動の指導をしていくことはどうだろうか。ゆくゆくは教員として

野口課長：以前募集したことはある。説明会で興味を示す方はいたが、その時は募集しても応募する方がいなかった。今年度はそういう形ではなく、募集を行った。地域おこし協力隊の究極の目的は生業を作って定着なので、受け皿がないことを考えると難しいのではないかと。

佐藤町長：スポーツも生業として成り立つようになってきているのではないかと。そういうことが可能であれば。役場から与えられた仕事だけではなく、自分で見つけた仕事を行い、割合を高めていく。国から 3 年分お金をいただける。それで中山町に住んでいただければなおありがたい。

○給食センターについて

佐藤町長：給食の地産地消の割合上がってきている。公会計化が来年度から実施されるので、集金等の負担は減るだろう。

大津委員：長期継続契約。今回は 3 か年。今後の方針を検討する必要があるというのは、例えばどのような方針を持っているのか。

森谷所長：委託長期継続契約は 3 年が限度となっている。単年度の契約は難しい。3 年で考えている。東洋食品はプロポーザル方式で選定した。価格だけではなく、業者の衛生管理能力、調理員の技能等も加味して選定したほうが良いと考えた。今回の実績を踏まえ、一社随契にするか、同じくプロポーザルにするか、入札にするか、課全体で検討していく必要があると考えている。

佐藤町長：材料の調達はだれが？

森谷所長：栄養教諭が見積合わせをし、業者に発注。野菜などは町内の業者はかくた商店一社のみ。調味料や主菜に係るものは町内に業者なし。町外の取引業者何社かから見積もりを出してもらっている。調味料は 1 年間で、他は学期ごとや月ごとに見積もり合わせを行っている。

佐藤町長：冷凍食材は増えているのか

森谷所長：手作りは割合ある方だと思うが、タンパク質系のおかずは冷凍が多い。

佐藤町長：地産地消は進めたいと考えている。一番数値的に見えてくるのは、給食センター。家庭の数値は見えづらい。農家の担い手不足。商品化できないものも給食でうまく活用できないか考えている。食品ロスの問題も多い。人件費の問題もあるだろうが、持久力をつけていかなければならない。

○生涯学習グループについて

鈴木委員：総合体育館の指定管理者制度について。学校体育館などもすべて当てはまるのか、それとも総合体育館のみののか。

多田統括：総合体育館の指定管理者業務の中に、町内のスポーツ施設、学校施設とスポーツ協会事務局の団体事務も含めたい。どこまでできるかわからないが、できればスポーツ少年団もと考えている。

鈴木委員：学校施設の貸し出しについて、学校はどのように考えるか。豊田小では物が壊れたりするという問題もあった。町で管理するものだから、町に委託する、町から団体に委託すると間に挟むことにどう思うか。元校長の立場として大津委員に伺いたい。

大津委員：社会体育に貸し出しをするのは、学校教育に影響がないのであれば、やぶさかではない。学校が手続きをすることになると、より事務作業が増えるので好ましくない。

齊藤委員：車いすの競技（体育館、テニスコート）で練習やデモンストレーションを行いたいときに、パフォーマンスできる場所がなく、そういう場所が欲しい。車いすの子がテニスコートに入る、体育館でラグビーなどに参加することは可能なのか。タイヤの跡、傷の問題で、どこでもできるわけではないと思うが、中山町としてはどういう考えなのかお聞かせ願いたい。

野口課長：現在、そういうことを想定したルールなどはないと思う。去年アリーナの床を弾性シートに張り替えた時に、車いす使用は話題になった。

佐藤町長：使ってほしいと考えている。傷ついた場所だけを補修すればよいようにシートを張り替えた。壁は板材なので硬式テニスボールは気を付けてほしい。段差があるので注意してほしいことやこの場所でタイヤを拭くなどの約束事は必要になってくるだろう。テニスコートは問題ない。合宿をするには、ゆららの使用は現段階では難しい。

齊藤委員：ゆららの活用状況は？

佐藤町長：一般向けの開放は積極的に行っているが、障害者向けのお風呂は1か所しかない。介護付き。なのでその辺は了承いただく必要がある。

齊藤委員：提供できる環境があるのであれば・・・ということが話題になっているので、聞いてみた。

佐藤町長：利用の注意事項はあるだろう。指定管理者に、そういうことも考えてもらい利用者や大会の受け入れを行っていききたい。

佐藤町長：休日の部活動についてはどう考えるか。令和5年は、休日は部活動なくなるということか。

浦山教育長：部活動としては、土日のどちらかを3時間までという縛りはある。それが外部団体となった場合は、緩くなるかどうかは何とも言えない。あまり進まないのかと考える。休日の部活動はなくなるか。

佐藤町長：文化協会やスポーツ審議会などに、受け皿をお願いしたいと考えていくということか。

多田統括：検討会議という組織を立ち上げたい。受け入れの会議と名称が変わるかは未定。

佐藤町長：国でどうするかは決まっていないのであれば、中山町バージョンでもいいのか。

多田統括：大枠の会議を立ち上げたとしても、スポーツと文科系、スポーツの中でも受け皿のあるスポ少の活動はどんどん進むかもしれないし、部活はあるがスポ少がないところでは話が進まないかもしれない。

大津委員：文化部と運動部があり、運動部の方で令和5年から地域に移行できそうなものがあれば教えてほしい。

多田統括：担当だけではバスケットやサッカー、野球はもしかすると…と思っている。

大津委員：剣道、柔道は受け入れ大丈夫なのか、卓球も含めて。

多田統括：卓球、軟式テニス、剣道、柔道もできるのではないかな。

大津委員：段階的に進めていかないとダメなのではないかな。部活動の顧問が付きたいというときには、また別な雇用形態になる。

今野委員：柏倉家住宅。町民の理解促進。紅花祭りとひなまつりと特別公開以外に考えていることがあれば教えてほしい。

多田統括：紅花祭りとひなまつりは利活用計画にも載せている特別公開の2つ。来年度「前蔵」を公開したいと考えている。公開の形態として、案内が必要なこともあり、特別公開とし、応募して限定何名かのツアーを秋ごろに実施したいと考えている。

今野委員：庭の講演会がある。一番きれいな時期（紅葉など）を見せるというのものもあるのではないかな。前の蔵が見られるというのはとても良い。

佐藤町長：今年、保存利活用計画について、国の承認を受けたい。より多くの町民に知ってもらうことを行っていきたい。気楽に行って、「中山町にとって大切なことなんだね」と思える場所であってほしい。町発展に携わってきたという理解を深めたい。

大津委員：部活動に関わる。スポ少、少子化。町のスポ小活動も今後かなり懸念されるのではないかと考える。スポ少への助成などの広報活動をいろいろなところでしてもらって、体験してもらうことなども大事だと考える。指導者側も中学校と連携しながら、休日のスポ少活動への移行などの大きな形を作ってほしい。日体大との連携の活動。コロナ禍があって、なかなか見えない。具体的に町民に「見える化」してほしい。広報活動を要望する。

佐藤町長：そのほかよろしいでしょうか。いろいろなことを参考にしながら、施策の方向性を共有し、一致して本町の教育執行にあたりたい。

会議録署名委員_____

会議録作成職員_____